

リアルマーケティング**住宅購入に関する意識調査****ジーコム**

市場調査、マーケティングなどを手掛ける㈱ジーコム（福岡市博多区古門戸町、村上隆英社長）は、福岡県在住の20歳以上の男女を対象に、住宅購入に関する意識調査を実施した。

調査はモニター男女300人を対象に11月6日から12日までインターネットで実施し、男女別、世代別で構成。現在の住居形態は「一戸建て持ち家」が37・4%と最も高く、次いで「賃貸集合住宅」が33・

3%、「分譲マンション自己所有」が18・2%。年代別に見ると、年代が上がるにつれて「二戸建て持ち家」の割合が高くなっており、20代は「賃貸集合住宅」、50代は「分譲マンション自己所有」の割合がそれぞれほかの年代に比べて高かった。

今後の住宅取得意向は「現在の住居に住み続けたい」が41・8%で最も高く、「具体的な計画はないが、ゆくゆくは購入したい」24・6%が続いた。3年以内に購入意向のある層は6・3%で、うち消費税率引き上げ時期（2014年4月）までに取得意向がある層は14・3%となった。また、住宅取得意向層における購入したい住宅のタイプは「市街地の分譲マンション」が42・2%、「郊外の一戸建て」が42・1%、「市街地の一戸建て」が38・2%となっている。そのほか自宅から職場までの理想的な通勤時間は平均25・6分、通勤時間の限界は同48・8分で、住宅購入の際の情報源と重視点は「物件そのものを見て」（52・9%）、「予算以内の価格である

こと」（75・7%）が最も高かった。調査レポートは同社では社員派遣結果レポートの説